［特集］

座談会◉乳幼児の子育てママ

子育てママたちの「きもち」

子育ての立場で、家族・地域・町はどう映っているのでしょうか？

子育てを家族、地域、町で支えることは重要なことです。しかし、支えるためには、子育ての中心となる子育てママの「きもち」を知ることが大切ではないでしょうか。まずは、知ることがスタートです。

子育てで大変なことは？

「子どものオムツトレーニングが大変です。お漏らししてしまうことがあります」

「病気したときですね。仕事が休めないなど。急なことだと難しいです」

「親と世代が違うから子育てが違います。口移しであげたり、着せろ着せろといわれます」

「子育てサークルにも、おじいちゃんとおばあちゃんが来てくれればいいと思います。情報交換もでき、お嫁さんには聞けないけど、他のお嫁さんなら聞く事もできると思います。今はそれが普通なんだと、思うこともあると思います」

「うちは仲がいいし、分かってくれて気も遣ってもくれるので、やりやすいですね」

お父さんの子育て参加は？

「私が寝込んだときなどは、夫がご飯を作ってくれます。普段はお風呂を入れたり、子どもの相手をしてくれますね」

「平日、夫は帰りが遅いので、子どもの世話は難しいです。休みの日はその分、朝から晩まで相手をしてくれるので、ありがたいです。平日、あてにできるのは、ちょっとうらやましいです」

「私はあてにしないで、ありがとうと思うように心がけています。夫は仕事が忙しいので、基本的に子育ては日曜日だけしてくれます。仕事もあって仕方ないかなと思うけど、下の子のおむつを一度も替えたことがないです」

全員、「え〜」

「子どもがおじいちゃん、おばあちゃんの方に慣れて、お父さんに慣れなくなって。せめて、お風呂に一緒に入ってコミュニケーションを取ってもらっています」

地域とのつながりは？

「散歩をしていると、畑仕事をしているおじいちゃん、おばあちゃんが声をかけてくれるので、つながりはあると思います」

「私の地域は、夏に地域全体でバーベキューをやります。おじいちゃん、おばあちゃんと子どもたちが交流できます」

「地域との交流は、小学校に上がらないとありませんよね。もっと、小さい頃から交流があればいいですね。保育園に入って、初めて知り合うお母さんも多いです。子育て広場に行くお母さんとは知り合えるけど、その他のお母さんとは接点がありません」

「子育てサークルに行ってますが、参加者が少ないです。来る人は決まってしまいます。結構、1人目のときは1回も来たことがなかったというお母さんがいますよね。きっかけがないんですよね。上の子どもが保育園に上がることによって、きっかけができて、来るようになるお母さんがいます。初めての所に行くのは、ちょっと勇気がいりますよね」

地域の課題は何ですか？

「遊びに行ける公園のようなところがないです。最近は公園に行っても、遊具は危ないということで、あまりありません」

「小学校の庭ぐらいだと思いますが、遊具は壊れたままで、遊ぶには危ないですね。園庭開放で保育園に行きますが、冬になると寒くてやらないので、冬もやってくれればいいのにと思います」

町の子育て支援の利用は？

「『ながの子育て家庭優待パスポート』はよく使いますが、店で利用できると大きくアピールしてもらわないと、使えるのか分からないですね」

「『一時保育』は1日預けると、結構な額になります。考えてしまいますね」

「『一時保育』をやっているところは古間保育園だけです。古間以外の人は預けやすいですけど、古間以外の人は預けづらいとは思います。はじめてだとなかなか使えないですね。前日に予約が必要なのも、難しいときがあります」

「私はうまく使わせてもらっています。上手に使える人は使えるんだけど、知らない人は全然知らない。『一時保育』を知らない人は結構いますね」

子育てをする上で信濃町は？

「病院もあるし、買い物も車で長野市などに行けます。適度ににぎやかで、適度に自然があって、子どもを育てるには、いい場所かなと思います。ここで子育てしたくて、ここに引っ越してくる人も出てくるようになったら、いいなと思います」

「車がないと買い物に行けないです。かかりつけが長野市の病院なので、ちょっと不便です。夏は過ごしやすくてすごく好きですが、冬になると実家に帰りたくなります。でも、子どもを育てるには、自然が多くて子どもは虫を捕まえて喜んでいるので、どっちがいいのかなと思います」

「長野市と比較すると、未満児保育は安く設定されていると思います。長野市は朝8時から無料ですが、基本料金が高いと長野市の友達に聞きました。あと、予防接種が他より早く無料化したので、そういうところは、がんばっているかなと」

全員、「そうなんだ」

魅力的な町にするためには？

「任意の予防接種に対してもう少し補助してほしいです。補助があれば受けやすくなります」

「土曜保育を古間保育園のみやっていますが、土曜日だけ違う園にいくのは、先生や友達も変わってしまい切ないです。働くお母さんの負担にもなるので、土曜日も各保育園でやってもらいたいです」

「子どもが違う保育園に行くのをイヤがります。人数が少ないというのはわかりますが、子どもはやっぱり慣れている保育園に見てもらいたいです」

「小中学校の駐車場が足りないです。病院の駐車場もそうですが、なんとかしてもらいたいですね」

「飯綱町では「なかよし広場」というのをやっています。おじいちゃん、おばあちゃんも孫を連れてきて、人形劇や紙芝居もあり、みんなでお弁当を広げて食べて、すごく良かったです。おじいちゃん、おばあちゃんやいろいろな地域の人たちと交流ができます。楽しいコミュニティの場づくりも参考にして欲しいと思います」

役場や広報については？

「以前、お昼に行ったら誰も出てきてくれなくて。お昼休みで自席で寝ている人がいましたが、呼んでも全然聞こえていないようで。呼んでいる方が恥ずかしくなりました」

「広報の写真が楽しみです。広報は情報が多いですが、月1回なので日々の情報が伝わってきません。保育園に入る前の子の親には、意外と情報が来ません。広報でお知らせしましたと言われても、広報だけでは、情報は得られないですね」

「防災無線はエコーがかかり聴き取れないです。子どももいるので、万が一のときに聞き取れないのでは困ります。緊急情報メールも、不審者情報が前々日ぐらいの情報が入ってきて、どうしてあんなに遅いのかなと思います」

――他にも色々なお話を伺うことができました。今回のお話も踏まえて、第2弾として広報で子育て特集を考えていきます。ご協力ありがとうございました。

参加者：写真の左から、小坂園枝さん（古間）/ 戸田佐和子さん（富士里）/ 斉藤里美さん（富士里）/ 片山房枝さん（柏原）/ 武前麻衣さん（野尻）/ 常田香織さん（野尻）／聞き手：住民福祉課 保健予防係 保健師 小池恵理奈